

林いさお通信

ピカいち!!のまちづくり



林いさお後援会

No.117
平成26年12月

私の政治信条『雨ニモマケズ』

林いさお 決起大会! 『みよし未来創造プラン』を発表

11月29日(土)、決起大会が、林いさお後援会事務所にて300名を超える支援者参加のもと盛大に開催されました。決起大会には、衆参両議院の国会議員をはじめ大勢のご来賓の皆様にお越しいただき励ましの言葉をいただきました。

林いさおは、4年間で実現した事業内容の説明や「まちづくりの方程式」など4年間のまちづくりへの思いを伝え、『蒔いた種の芽が出はじめた。さらに大きく成長させ、三芳町が魅力あふれ喜び一杯幸せになれるよう花を咲かせたい。』と未来のまちづくりへの決意を熱く訴えました。

今回、二期目に向けてのマニフェスト(公約)『みよし未来創造プラン 31の宣言』が出来上がり、檄の後には、いつものように「本人旗」をひるがえして自転車で公約の配布に出発。参加者も支援者に配布すべくそれぞれの地域に向かいました。

今回の選挙においては、林いさおの4年間の実績を評価し、自由民主党、公明党、民主党、連合埼玉からも推薦をいただいています。林いさおは地方自治の精神に則り、しがらみのない住民主役の町政を目指しています。



熱気に包まれる会場



西田参議院議員より推薦状を預かりガッチリ握手



本人旗を翻し街頭へ



林いさおプロフィール

- 昭和32年10月生まれ
- 三芳小学校、三芳中学校を経て県立松山高等学校、國學院大學文学部、同大学院文学研究科修士修了。三芳町役場職員を経て、神明社宮司、サツマイモのはやし園へ。
- 趣味・・・読書、音楽鑑賞、サイクリング
- 好きな言葉・・・念ずれば 花ひらく(坂村真民)
- 尊敬する人・・・坂本龍馬、二宮金次郎
- 主な経歴・・・2007年、三芳町議トップ当選(2484票)
2010年三芳町長当選、入間東部地区衛生組合管理者 その他、三芳町消防団団長、東入間青年会議所理事長、日本青年会議所理事、NPO法人国境なき奉仕団理事

林いさお後援会

電話 070-1414-0130 〒354-0045 三芳町上富1003

ご来賓の皆様



西田実仁参議院議員



柴山昌彦前衆議院議員



神山佐市前衆議院議員



小野塚勝俊元衆議院議員

出陣式のご案内

日時
12月9日 午前10時

場所
林いさお選挙事務所

住所
三芳町上富1003

『雨ニモマケズ』

宮沢賢治

私の政治信条

雨ニモマケズ

勇氣

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

強さ

丈夫ナカラダヲモチ

欲ハナク

無欲

決シテ怒ラズ

イツモシツカニワラツテキル

平常心

一日ニ玄米四合ト

味噌ト少シノ野菜ヲタベ

儉約

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ

無私

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

知恵

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ

小サナ萱ブキノ小屋ニキテ

質素

東ニ病氣ノコドモアレバ

行ツテ看病シテヤリ

優しさと

西ニツカレタ母アレバ

行ツテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

行動力

南ニ死ニサウナ人アレバ

行ツテコハガラナクテモイイトイヒ

信念

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイヒ

祈り

ヒデリノトキハナミダヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

信念

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

サウイフモノニ

ワタシハナリタイ

志

宮沢賢治の『雨ニモマケズ』の詩は、私の大好きな詩の一つです。私の日々を生きる信条です。

「政治」って何なのでしょうか。

「まちづくりの心」は……。

この町を少しでも良くしたいと、政治的行動を起こすことを決意してから、この問いを真剣に考え続けてきました。

多くの人に出会い、地域の問題を聞き、それぞれの人生に触れ、ふと立ち止まった時、宮沢賢治のこの詩が、違った光りを放って心に輝いてきました。

一個の人間の生き方として信条にしていたこの詩が、今、何よりも政治家に求められている姿勢ではないかと……。

宮沢賢治の詩には、深い真摯な祈りを感じます。町の発展、あらゆる人々の幸せへの祈り、そして、自己を律した生活と行動力……。詩の中に感じられるあらゆる徳を満たすことは難しいかもしれない。

しかし、

サウイフセイジカニ ワタシハナリタイ。

7年半前、町議会議員選挙に立候補した時に、こう記しました。

その思いは今も変わっていません。

町政を担う立場になり、さらにその思いは強くなってきています。

昨年、ろう者からの薦めもあって手話を学び始めました。障害者基本法では手話は言語とされています。私自身、手話を学び、ろう者と交流する中で「手話は言語である」ということを知り、感じることができました。

外国語を学ぶことにより、今まで知らなかった国の人々の文化、歴史、考え方を知り新たな世界が広がるように、手話を学ぶことによって多くの気づきがありました。手話という言語を共有することによって、今まで見えなかったものが観え、聞こえなかったものが聞こえ、心の距離が近くなったように感じます。

「風地観」（『易经』）という言葉があります。

風は遍く広く地上を吹き渡っていきます。その風は私たちの目からは見ることができませんが、感じるすることができます。風によって旗がひらめいたり草木がなびいたり、私たちの頬に風が当たって「今日は風がある」と感じるすることができます。それを観る。「観」には「鳥の鳴き声」という意味があったそうです。鳥の鳴き声を聞いて鳥の存在を知ったり鳥の状態を知ったりすることです。

まちづくりの要諦は、「見えないものを観る心」、それは、住民の皆さまの悲しみ、苦しみ、痛み、あるいは、喜び、夢や願いを感じる心ではないかと考えます。

住民の皆さまの一人ひとりの声に耳を傾け、そして、声なき声をも観、少しでも町政に反映させていきたいと思います。そのためには、自ら現場に赴き一人でも多くの住民の皆さまと意見を交わし、誠心誠意お話を聞かせていただく。

「雨ニモマケズ」とともに、見えないものを観、聞こえない声をしっかりと聞ける町づくりを進めてまいりたいと思います。

